

教育長報告事項資料

一般事務報告

- 1 第7回白石市いじめ防止大会（1/12）（教育専門監）
- 2 第33回市民綱引き大会（1/21）（生涯学習課長）
- 3 宮城県市町村教育委員・教育長研修会（1/22）（学校管理課長）
- 4 社会教育委員の会議（1/23）（生涯学習課長）
- 5 文化庁「子どものための文化芸術鑑賞・体験再興事業」（1/25）（生涯学習課長）
- 6 臨時校長会議（1/30）（教育専門監）
- 7 文部科学省総合教育政策局教育DX推進室長視察（2/5）（教育専門監）
- 8 教育実践ローンチ・シンポジウム（2/8）（教育専門監）
- 9 寄附受納式（学校管理課長・図書館長）
 - （1）フレスコ株式会社（2/7）
 - （2）白石北ロータリークラブ（2/8）

専決事務報告

- 1 人事案件（学校管理課長）

その他

- 1 小中学校教育のあり方答申説明会について（学校管理課長）
- 2 その他

令和6年1月23日

答 申

白石市社会教育委員の会議

「シビックプライドの醸成について」

1 はじめに

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が第5類感染症となり、マスク着用や外出なども個人の判断に委ねられるようになった。学校や社会では新しい生活様式が日常になった時期もあったが、徐々にコロナ前の生活に戻りつつある。白石市ではこれまで感染防止を踏まえながら様々な事業を行ってきたが、現在は、他者との学び合いを通じて相互のつながりを深めたり、新たな関係性を形成したりという社会教育の特徴を少しずつ発揮できる状況に戻っている。

新型コロナウイルス感染症が蔓延しつつあった令和3年度、白石市では、子どもから高齢者全ての市民が安全・安心のもと幸せな生活を営んでいける社会を目指し、第6次白石市総合計画を策定した。策定後は、その実践に向けて行政等が努力している状況だが、白石市民が安全で安心できる社会を実現していくためには市民が地域社会の一員として認められること、地域の多様な人たちが相互に理解し合い、共生できるように共に学び合う場を、社会教育を通じて実現していくことが重要になってくる。

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、困難を抱える家庭や子どもたち、外国籍の子どもや家族、障害のある方やその家族、社会的に孤立しがちな若者や高齢者への支援が一層大事になっており、シビックプライドの醸成を目指すためには、地域の魅力発見やシティプロモーションに力を入れると同様にこのような市民に目を向けていくことも重要になってくると考える。

第6次白石市総合計画の市民アンケート資料によると、白石市で暮らすことに誇らしいと感じている市民が全体の27%、感じていない市民が38%と誇りを感じていない市民の割合が高くなっている。誇りを感じている市民にその理由を尋ねたところ、43%が「自然の豊かさや風景の美しさ」を挙げており、その他として、生活の利便性（19.3%）、歴史や伝統文化（15%）、住んでいる人の人柄（13.8%）が続いている。

このような結果から市民が誇りを感じている自然の保全や歴史・伝統文化の継承、白石市の新たな魅力の発掘、多様性や共助の大切さを自覚できるような市民性の向上などがシビックプライドの醸成に関係してくるのではないかと考える。さらに、市外に対して白石市の魅力をシティプロモーションとして情報発信していくことで、市民一人一人が改めてまちの魅力に気づき、自分のまちづくりに積極的にかかわろうとする意識を高めていくことが、シビックプライドの醸成を目指していく上では大きな役割を果たすのではないかと考える。

2 シビックプライドの醸成とその実現に向けて課題と解決の手立て

白石市におけるシビックプライドのある市民とはどのような市民であるか、また、市民の中にシビックプライドを醸成していくうえでどのような課題があり、解決に必要な手立てにはどのようなことが考えられるかについて目指す市民像を設定し、これまで協議してきた。その概要は以下のとおりである。

(1) 社会教育委員の会議開催日と検討内容

① 令和4年4月26日(火)

教育委員会から社会教育委員の会議に対して諮問

令和3年度事業報告 令和4年度事業計画

シビックプライドのある市民像についての協議及び共通理解

- ・白石市の自慢ができる(地域のよさを語れる)
- ・多様性を認め、当事者意識をもてる
- ・明るい未来を思い描き市政に積極的に参加する
- ・他地域から転入、あるいは他地域に転出しても「ふるさと白石」を実感している

② 令和4年7月26日(火)

白石市の自慢ができる(地域のよさを語れる)市民を育成するために必要なこと

- ・白石市のよさとは何か
- ・現状から見える課題
- ・解決に向けた手立て

③ 令和4年10月25日(火)

多様性を認め、当事者意識をもてる市民を育成するために必要なこと

- ・多様性、当事者意識をもてる市民とは
- ・現状から見える課題
- ・解決に向けた手立て

④ 令和5年1月24日(火)

当事者意識の育成と防災教育の在り方について

- ・被災地の現状視察(旧中浜小学校)

明るい未来を思い描き市政に積極的に参加する市民を育成(町への愛着を持って)するために必要なこと

- ・明るい未来を思い描き積極的に参加するとは
- ・現状から見える課題
- ・解決に向けた手立て

⑤ 令和5年4月26日(水)

令和4年度事業報告 令和5年度事業計画

他地域から転入した、あるいは他地域に転出しても「ふるさと白石」を実感できる市民の増加・育成の必要について

- ・他地域から転入、あるいは他地域に転出しても「ふるさと白石」を実感している状態とは

- ・現状から見える課題 ・解決に向けた手立て
- ◎ 令和5年7月25日（火）
白石水路研究会制作「白石 水めぐる城下町」の紹介
子どもや大人の「しろいし」についての学びについて
「ふるさと白石」を実感できる取組の検討
- ◎ 令和5年10月24日（火）
会議内容のまとめ・答申案の検討
- ◎ 令和6年1月23日（火）
答申書提出

3 社会教育委員が考える「シビックプライドのある市民」

- (1) 白石市の自慢ができる（町のよさを語れる）
白石市にある名所旧跡、自然、産業等で誇れるもの
- (2) 多様性を認め、当事者意識をもてる
異文化の理解やマイノリティの認識、相手意識の育成、防災への関心
- (3) 明るい未来を思い描き市政に積極的に参加する（町への愛着を持って）
地域の行事や市のイベントへの参画、各組織のつながり
- (4) 他地域から転入、あるいは他地域に転出しても「ふるさと白石」を実感できる

4 シビックプライドの醸成に向けた課題と解決に向けた提言

- (1) 白石市の自慢ができる（地域のよさを語れる）市民の育成
 - ◎ 白石市のよさとは

委員が考える白石市のよさ

- ・歴史や文化（白石城・碧水園等、施設や遺跡、名所、言い伝え等）
- ・自然（蔵王、白石川、梅花藻、材木岩等）
- ・地場産業（白石三白^{さんぱく}、白石三白野菜^{さんぱく}、白石うーめん）、観光・温泉
- ・人とのつながり（イベント・防災・講座）

- ◎ 現状から見える課題
＜白石市（地域）のよさを知る教育機会の確保（学校教育）＞
 - ・学校はもとより家庭や地域で子どもに白石市のよさに気づかせたり、白石市にしかないよさを教えたりする機会の減少
 - ・大人自身の白石市の歴史や伝え話、自然など白石市にかかわる文化や自然に関する理解不足、学べる時間や場の提供

- ・コロナ禍の影響や、価値観の多様化による大人（家庭）同士の距離感、地域コミュニティの希薄化の進行

◎ 解決に向けた提言

＜学校・地域協働活動の充実＞

ア 郷土学習の推進

- ・親子での小学校社会科副読本活用のを設ける（学年行事等）
- ・白石市に伝わる民話やおとぎ話「みちしるべ（H7.7.15）」、青年会議所編集「ちょっと素敵なまちの物語」などの学校や子育て支援センターでの読み聞かせや動画での紹介
- ・上記資料や解説を付けた資料の白石市ホームページへのアップや広報誌によるPR活動、資料をパネルにして各学校を巡回させ、回ってきた学校で話を聞かせる時間の設定
- ・小・中学校における学校区地域の歴史調査や白石三白・白石三白野菜等の地場産品を含めた紹介パンフレットづくりの実施
- ・地域の自然を知る体験学習の推進やゲストティーチャーによる白石市の歴史や偉人に関する出前授業の実施（学年親子活動での学びの場）
- ・白石市にかかわるクイズや検定の計画的・定期的な実施
- ・小中学生のアイデアによる「白石かるた」（仮称）の作成
- ・白石城や歴史探訪ミュージアムの定期訪問やA Zナインパスポートの積極的活用

＜大人のための学びの場の確保＞

ア 市民講座、体験活動など市民への学びの場の提供と情報発信

- ・様々な内容の講座や体験教室など様々な切り口での講座・教室の実施、ホームページや広報誌等での積極的な広報活動
- ・教室参加人数だけでなく、学びの内容の評価
- ・オンラインによる研修会、オンラインと対面のハイブリットによる講座など研修内容に応じた開催形式の検討
- ・ジュニアリーダーによる講座中の幼児・児童の見守りと託児の工夫

イ 白石市の文化財の発掘や修復 郷土学習の講師の発掘

- ・文化財発掘や修復の様子（過程）をホームページや広報誌で紹介
- ・郷土学習の講師の人材リスト作成と学校への資料提供

- ウ 郷土に関する知識を理解できるような働きかけ（クイズ・検定・豆知識等）
 - ・ホームページや広報誌、SNS等を利用した親子で楽しめる定期的な白石検定やクイズの実施

- エ 観光施設・設備の整備や様々な企画や情報の発信
 - ・白石城を核にしたイベントの企画
鬼小十郎まつりの他に、白石城を基点にしたイベントの開発（盆踊りの会場、コンサート、地場産品マルシェ、初日の出見学など）

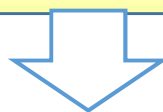
<保護者同士の繋がりへの再構築>

- ア 小中学校、幼稚園・保育園の保護者同士が交流できる感染症対策を講じた授業（保育）参観や行事の工夫
 - ・幼稚園・保育園・小中学校のPTA行事の再開、親子活動の工夫

- イ 地域の子ども会活動等でのオリエンテーリング、地域の人材がかかわる郷土資料学習など学びの企画

(2) 多様性を認め、当事者意識をもてる市民の育成

① 多様性・当事者意識とは
 多様な価値観の受け止めや自分とは異なる文化の理解、社会的マイノリティの認識、災害や安全にかかわる自助・共助の意識 など
 （難しい側面もあるが、シビックプライドの醸成にかかわる内容も多いと考える。）



◎ 現状から見える課題

<多様性の理解と当事者意識>

- ・価値観の相違や異文化等を理解するための啓発活動の不足
自国の文化や他国の文化（言葉・習慣等）を理解する機会の不足や外国にルーツをもつ児童生徒・保護者、就労者の安心・安全の確保
- ・社会的マイノリティへの理解
SDGs（持続可能な開発目標）達成への学び、インクルージョン（包摂性）、エクイティの学びへの取組
- ※ **エクイティ (Equity)** とは、一人ひとりがパフォーマンスを出せるよう、個々に合わせて支援内容を調整し、公平な土台をつくり上

げること

＜防災意識の啓発と災害に対する自助・共助力と心の育成＞

東日本大震災を経験していない児童生徒への防災意識の啓発や自然災害へのコミュニティとしての対策と市民の災害に対する自助・共助力と心の育成

◎ 解決に向けた提言

＜ダイバーシティ（多様性）を理解できる市民の育成＞

ア 小中学校における国際理解教育の充実と外国にルーツのある在籍児童・生徒、その家族等へのきめ細やかな支援

- ・白石市に残る日本の伝統文化の学びの機会の提供
- ・外国生活経験者による異文化の紹介（学校教育・社会教育）
- ・外国にルーツのある児童生徒・家庭への支援（教育・福祉）（グローバルパートナーシップの醸成）
- ・探究の対話（p 4 c）を活用した対話場面の工夫
- ・インバウンドを意識した施設設備の充実と地場産品を用いたもてなしの工夫

イ SDGs やインクルーシブを意識した学習内容や探究活動の実施

- ・SDGs 17の目標を意識した、白石市の自然環境や資源を大切にするための学習活動

- ・障害者を交えた行事の工夫やバリアフリーを踏まえた施設の見直しと改善

ウ 災害を想定した避難訓練の実施や被災地訪問、被災経験者による講話や防災意識を啓発する取組

- ・地震、大雨、洪水等、災害の種類に応じた避難訓練
- ・自治会ごと、地域の実情に応じて被害が予想される場面を想定した避難訓練の実施
- ・小中学校における定期的な被災地訪問や被災経験者の講話など、特に東日本大震災を経験していない児童への指導
- ・市民への定期的な防災学習の機会の提供（行政）

(3) 明るい未来を思い描き市政に積極的に参加する市民（町への愛着を持って）の育成

① 明るい未来を思い描き積極的に参加するとは
白石市の将来を考えて、市や地域の活動に積極的にかかわるとともに、
ICT（情報通信技術）やSNSを活用して必要な市の情報を得たり、
得た情報をもとに市の活動に自主的に参加、協力できる。



◎ 現状から見える課題

- <若年層の市政への興味関心の喚起>
 - ・ 選挙や市議会関係、市政への興味関心
 - ・ 中学生・高校生の行政への協力
- <地域のイベントや地域活性化につなげる活動への参加>
 - ・ 周知や広報活動の工夫や内容の見直し
- <デジタルシチズンシップの涵養>
 - ・ 高齢者のSNS活用に対する援助
 - ・ SNS関係の学びの場の提供

◎ 解決に向けた提言

- ア 選挙や議会への興味関心の喚起と行政へのアイデアの募集等
 - ・ 議会の見学や子ども議会の計画・実施
 - ・ 特に若年層の市民と議員との地域での対話場面の設定
 - ・ 中高生への選挙啓発に関するアイデアの募集と周知や広報活動
- イ 中高生のイベント参加への働きかけと中高生主体のイベント企画
 - ・ イベントに関する中高生のアイデア募集やイベント実施の際のボランティアや役割分担、小学生や幼児への招待状の配布
 - ・ 季節のイベント（春・夏祭り）やスポーツイベント（市民体育大会、地区運動会、しろいし蔵王高原マラソン等）、歴史・文化的イベント（全日本こけしコンクール、鬼小十郎まつり等）の実行委員会への地域の中高生の参画や学校・地域からの呼びかけ
 - ・ イベントのマナー化を防ぎ、新しい企画をイベントに導入するとともに、その企画をホームページや広報誌等で周知
- ウ 市民のSNS利用人口の増加や活用できる市民の育成
 - ・ 特に高齢者に向けたスマホ購入への援助
 - ・ スマホの活用技術に関する講習会の企画と実施（地域ごと）
 - ・ SNSを使った広報や各種イベントの企画・実施

(4) 他地域から転入、あるいは他地域に転出しても「ふるさと白石」を実感できる市民

①「ふるさと白石」を実感できる市民とは
白石市に転入した、あるいは白石市から離れていった方々で「ふるさと白石」への誇りや愛着のもてる市民

◎ 現状から見える課題

<文化や歴史等の学びの機会>

- ・白石市民はもとより白石市に移住してきた方々に地元の文化や歴史、自然等の魅力を知ってもらう機会の不足

<行事や体験活動の周知と参加者へのもてなし>

- ・移住された市民の市主催行事や体験活動等への参加率の向上
- ・参加者が引き続き参加したいと思わせるもてなし

<「ふるさと白石」を想起できる企画や広報>

- ・白石市を離れた人々に対する地元愛を高める工夫

◎ 解決に向けた提言

ア 情報発信内容の充実と紹介資料（パンフレットなど）の工夫改善

- ・市のホームページを見やすく、視覚に訴えるきれいで内容の豊富なホームページになるような企画立案
- ・閲覧者の幅広いニーズに合わせた情報の掲載

EX：子育てに関するサークル情報、定年後ふるさとに戻った市民への趣味関係情報、就職や転勤で移住された市民向けの街歩き情報 など

・年齢層や障害者、あるいは趣味に合わせたパンフレットの作成

EX：キッズ用、高齢者用パンフレット、点字パンフレット、食べ歩きパンフレット、歴史探訪パンフレット など

- ・白石市に転入した際に配付する歴史や文化などがコンパクトにパッケージされたパンフレットの作成

イ 主催行事及び広報の工夫と特典の吟味

- ・民間の会社やNPO法人とコラボした行事の開催

EX：まちづくり株式会社と連携した「まちあるき」の定期開催

- ・まちあるきガイドの存在を市民へ周知する工夫と児童生徒のガイド育成の機会

- ・市内の店舗や施設と協力した参加者への特典の工夫

E X：参加回数に応じた地場製品のプレゼント、市内施設への招待、市外から参加した方への工芸品などのお土産

- ウ 白石市を離れた市民がふるさととのつながりを感じられる情報発信の工夫や学校への協力依頼等
- ・ 昔の白石市の町並みや行事の写真、移りゆく自然やなつかしいと思わせる店舗や食の情報など、白石市を思い出せるような情報をホームページ上に掲載
 - ・ 同年会や同窓会の機会をとらえた市のイベント情報や観光情報の積極的・定期的な発信
 - ・ 県外や国内外、世界で活躍している白石市の中学校OBの方に呼びかけ、中学生の志教育や職場体験等でゲストティーチャーとして要請
 - ・ 地場製品のブランド化に向けた協議会の設立や白石ブランド製品のマスメディアを使った情報発信
- E X：白石温麺、白石和紙、弥次郎こけし、ササニシキ、もろきゅうり、白石の水、酒 など

5 おわりに

シビックプライドの醸成の「醸成」には、やる気や信頼、雰囲気や連帯感などの気運を作り出すという意味がある。市民の中にシビックプライドを醸成するためには、時間をかけながら様々な白石市の魅力ある資源に気づかせたり、安心して生きがいのある生活を実感させたりすることが大事である。また、多様化する価値観に対応する情報発信方法の工夫や、希薄になっている人間関係の回復のために、地域の活性化なども重要である。

また、シビックプライドの醸成に向けては、今ある白石市の魅力ある資源ばかりでなく、若い世代のアイデアを生かした新しい資源の発掘と情報発信も大事であると考え。これらの魅力ある資源を積極的に国内外に発信していくことで、市民もその魅力を共有し、誇らしく他者に語り、まちづくりにかかわることが期待できる。さらに、成人や高齢者を対象に種々の施策を講じていくことはもちろん大事であるが、何よりも、白石市の将来を担う子どもたちに、よき思い出を残せるような魅力ある学校教育や地域の行事が必要である。地元のすばらしい歴史・文化・自然に触れることにより得られた成功体験や達成感は、白石市のよさや魅力として子どもたちの記憶に残り、必ずや白石市への誇りやふるさとへの自慢にもつながると考える。そのような心に残る貴重な体験の機会づくりや新たな資源の開発にむけて今後も努力されることを期待したい。